

**愛媛大学 地域協働推進機構 防災
情報研究センターの取組について**
～四国MEの養成と関連する活動～

愛媛大学防災情報研究センター
特定教授 山本浩司

四国の人口と経済規模

四国の人口

約380万人（全国の約3%）

2040年：約300万人を切る※

生産年齢人口

約220万人（全国の約2.8%）

約150万人に減る※

経済規模

日本全国のGDPに占める四国の経済規模は2.8%

※ 日本の地域別将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所まとめ）

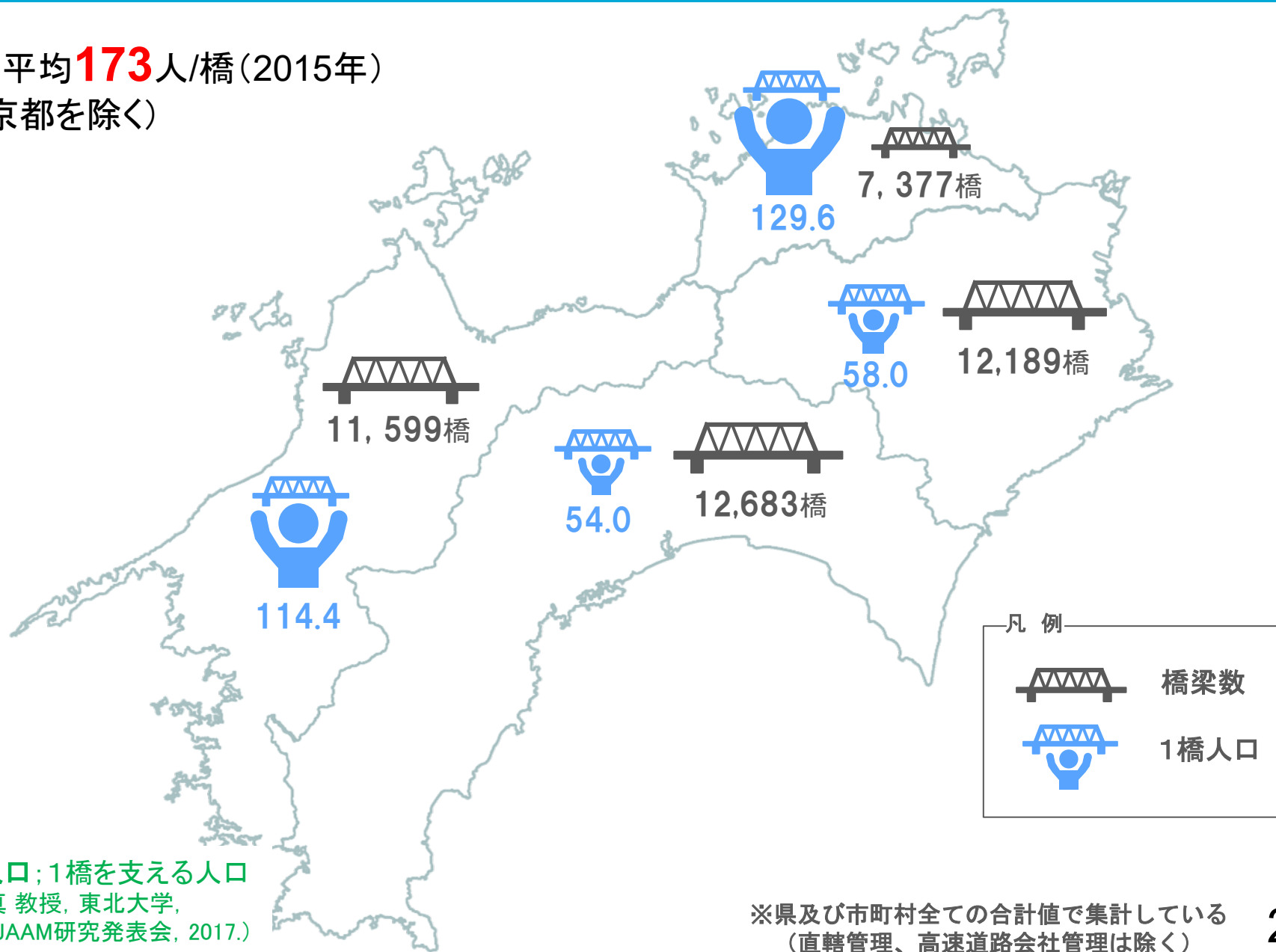
3%

→ 地域インフラの老齢化が進む中で、
地域に根ざした技術者数が不足、今後ますます悪化



例えば、四国の橋梁数と1橋人口

全国平均 **173** 人/橋 (2015年)
(東京都を除く)



※1橋人口; 1橋を支える人口
(久田 真 教授, 東北大学,
第1回JAAM研究発表会, 2017.)

※県及び市町村全ての合計値で集計している
(直轄管理、高速道路会社管理は除く)

愛媛県

都道府県名	市区町村名	2023年人口 (人)	管理橋梁数 (橋)	1橋人口 (人／橋)
愛媛県	松山市	503,865	1067	472.2
愛媛県	今治市	151,608	1409	107.6
愛媛県	宇和島市	70,019	937	74.7
愛媛県	八幡浜市	31,293	231	135.5
愛媛県	新居浜市	115,314	354	325.7
愛媛県	西条市	105,616	887	119.1
愛媛県	大洲市	40,580	478	84.9
愛媛県	伊予市	35,805	295	121.4
愛媛県	四国中央市	83,426	606	137.7
愛媛県	西予市	35,232	658	53.5
愛媛県	東温市	33,250	296	112.3
愛媛県	越智郡上島町	6,283	32	196.3
愛媛県	上浮穴郡久万高原町	7,420	263	28.2
愛媛県	伊予郡松前町	30,364	211	143.9
愛媛県	伊予郡砥部町	20,510	156	131.5
愛媛県	喜多郡内子町	15,406	240	64.2
愛媛県	西宇和郡伊方町	8,395	102	82.3
愛媛県	北宇和郡松野町	3,661	119	30.8
愛媛県	北宇和郡鬼北町	9,563	223	42.9
愛媛県	南宇和郡愛南町	19,575	341	57.4

香川県

都道府県名	市区町村名	2023年人口 (人)	管理橋梁数 (橋)	1橋人口 (人／橋)
香川県	高松市	422,424	1494	282.7
香川県	丸亀市	111,575	525	212.5
香川県	坂出市	50,931	279	182.5
香川県	善通寺市	30,682	306	100.3
香川県	観音寺市	57,738	362	159.5
香川県	さぬき市	45,822	541	84.7
香川県	東かがわ市	28,498	279	102.1
香川県	三豊市	62,258	667	93.3
香川県	小豆郡土庄町	13,000	190	68.4
香川県	小豆郡小豆島町	13,616	273	49.9
香川県	木田郡三木町	27,310	168	162.6
香川県	香川郡直島町	2,949	20	147.5
香川県	綾歌郡宇多津町	18,446	30	614.9
香川県	綾歌郡綾川町	23,368	177	132.0
香川県	仲多度郡琴平町	8,434	69	122.2
香川県	仲多度郡多度津町	22,126	112	197.6
香川県	仲多度郡まんのう町	17,610	255	69.1

行政数	市	町	村	計
愛媛県	11	9		20
香川県	8	9		17
徳島県	8	15	1	24
高知県	11	17	6	34

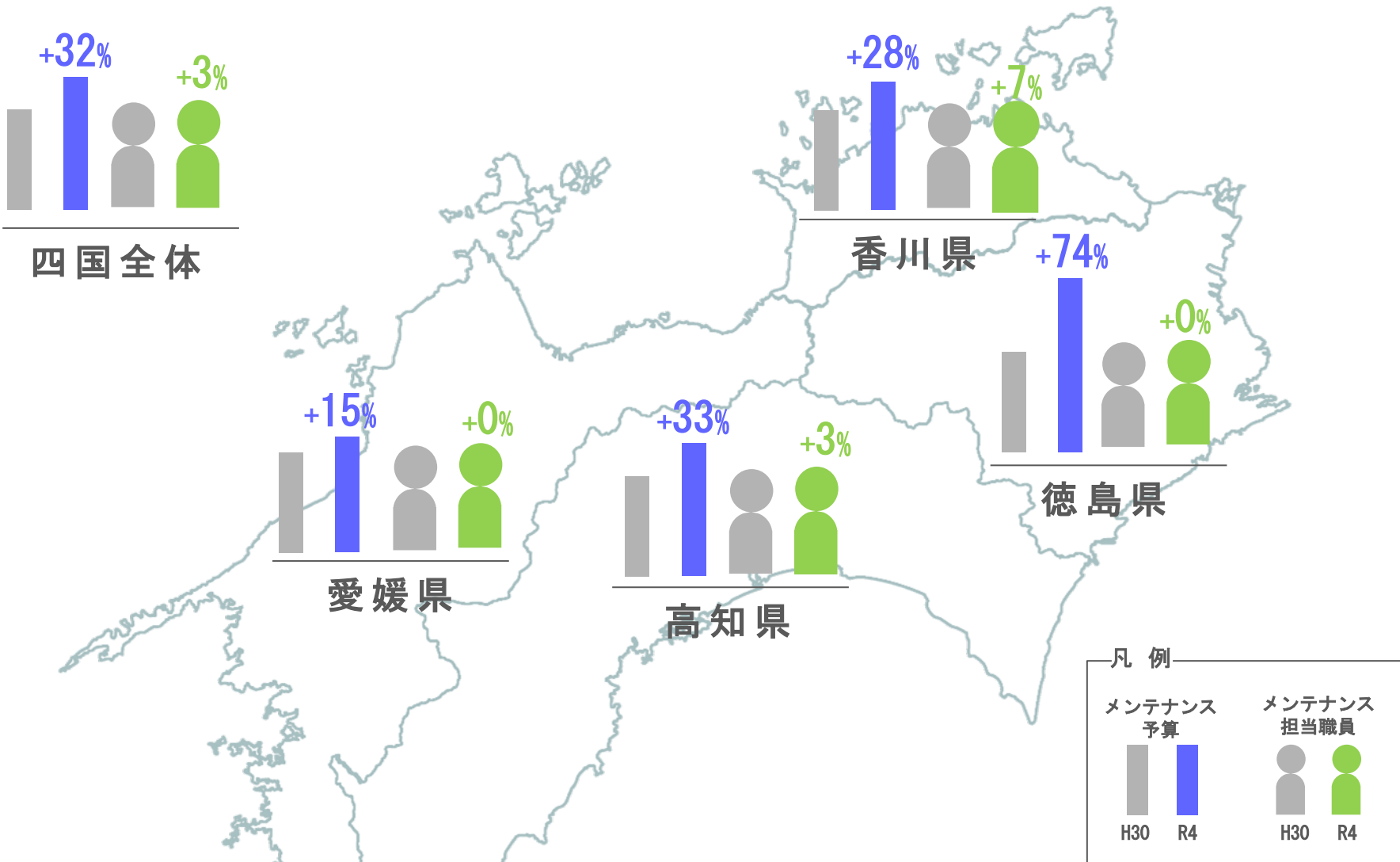
自治体毎の1橋人口(徳島県、高知県)

徳島県

都道府県名	市区町村名	2023年人口 (人)	管理橋梁数 (橋)	1橋人口 (人／橋)
徳島県	徳島市	249,040	1347	184.9
徳島県	鳴門市	54,746	709	77.2
徳島県	小松島市	35,894	307	116.9
徳島県	阿南市	69,954	1026	68.2
徳島県	吉野川市	38,872	671	57.9
徳島県	阿波市	35,315	627	56.3
徳島県	美馬市	27,354	574	47.7
徳島県	三好市	23,530	564	41.7
徳島県	勝浦郡勝浦町	4,825	260	18.6
徳島県	勝浦郡上勝町	1,427	203	7.0
徳島県	名東郡佐那河内村	2,170	139	15.6
徳島県	名西郡石井町	25,097	350	71.7
徳島県	名西郡神山町	4,846	267	18.1
徳島県	那賀郡那賀町	7,490	235	31.9
徳島県	海部郡牟岐町	3,693	102	36.2
徳島県	海部郡美波町	6,071	209	29.0
徳島県	海部郡海陽町	8,645	300	28.8
徳島県	板野郡松茂町	14,723	274	53.7
徳島県	板野郡北島町	23,574	239	98.6
徳島県	板野郡藍住町	35,579	159	223.8
徳島県	板野郡板野町	13,039	232	56.2
徳島県	板野郡上板町	11,474	236	48.6
徳島県	美馬郡つるぎ町	7,893	213	37.1
徳島県	三好郡東みよし町	13,628	196	69.5

高知県

都道府県名	市区町村名	2023年人口 (人)	管理橋梁数 (橋)	1橋人口 (人／橋)
高知県	高知市	319,724	1722	185.7
高知県	室戸市	11,693	242	48.3
高知県	安芸市	16,235	396	41.0
高知県	南国市	46,328	768	60.3
高知県	土佐市	26,334	562	46.9
高知県	須崎市	20,268	461	44.0
高知県	宿毛市	19,178	341	56.2
高知県	土佐清水市	12,271	203	60.4
高知県	四万十市	32,460	556	58.4
高知県	香南市	33,009	405	81.5
高知県	香美市	25,381	351	72.3
高知県	安芸郡東洋町	2,148	85	25.3
高知県	安芸郡奈半利町	3,003	73	41.1
高知県	安芸郡田野町	2,524	39	64.7
高知県	安芸郡安田町	2,413	83	29.1
高知県	安芸郡北川村	1,213	86	14.1
高知県	安芸郡馬路村	827	79	10.5
高知県	安芸郡芸西村	3,621	98	36.9
高知県	長岡郡本山町	3,299	74	44.6
高知県	長岡郡大豊町	3,223	312	10.3
高知県	土佐郡土佐町	3,625	100	36.3
高知県	土佐郡大川村	361	22	16.4
高知県	吾川郡いの町	21,504	388	55.4
高知県	吾川郡仁淀川町	4,795	342	14.0
高知県	高岡郡中土佐町	6,106	196	31.2
高知県	高岡郡佐川町	12,238	352	34.8
高知県	高岡郡越知町	5,087	142	35.8
高知県	高岡郡檜原町	3,236	155	20.9
高知県	高岡郡日高村	4,858	143	34.0
高知県	高岡郡津野町	5,456	261	20.9
高知県	高岡郡四万十町	15,761	621	25.4
高知県	幡多郡大月町	4,582	135	33.9
高知県	幡多郡三原村	1,435	77	18.6
高知県	幡多郡黒潮町	10,411	260	40.0



※H30→R4のメンテナンス予算及び担当者の推移は
県及び市町村の合計値の増加率としている

ME人材育成連携コンソーシアム(大学間等の連携・開発)

インフラを支える
活動

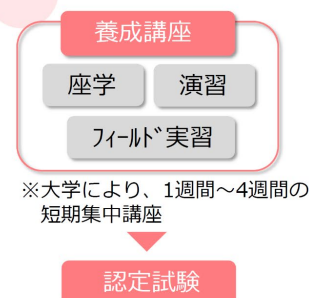
大学の連携によりメンテナンス技術者養成

インフラメンテナンスの技術者養成講座



- 産学官が連携し、行政と建設業界双方の技術力向上
- 毎日朝から夕方まで集中的な履修を経て、着実に専門的スキルアップ
- 各大学における平成27年末時点の受講者数は、累計1300名以上

仕組み概要



カリキュラム (岐阜大学の例)

- 16コマ=1科目で、以下の5科目から構成
 - ・ 橋梁の設計・トンネル
 - ・ 橋梁の維持管理
 - ・ 地盤と斜面
 - ・ 土構造物と舗装・水道・河川構造物
 - ・ インフラマネジメント
- 1日4コマで20日間
- 座学、演習、フィールド実習などがバランス良く配置され、受講者の技術力と土木技術者の意識を向上させるカリキュラム
- 履修証明プログラムとして、修了者に対し法に基づき履修証明書を交付

社会基盤メンテナンスエキスパート (ME) 養成講座

地域ニーズに応えるインフラ再生技術者育成のためのカリキュラム
四国MEの認定

地域ニーズ:

社会基盤の再生を担うメンテナンス技術者 (即戦力人材) の育成

文部科学省「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」(平成26～28年度)
「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」(平成29年度)

愛媛大学履修証明プログラム

行政と民間の
技術者育成

平成28年度(2016年度)より,
愛媛大学の「履修証明プログラム」として
文部科学省の「職業実践力育成プログラム(BP: Brush up Program)」に認定

ME養成講座(12日間, R05から13日間)の受講
⇒ 認定試験(一定基準以上の成績) ⇒ 四国ME 授与

四国ME(メンテナンス・エキスパート)

総合的なメンテナンス技術者
いわば社会基盤の“目利き”

総合的な知識
高度な技術力
俯瞰的な視野
技術者の連携



愛媛県における産官学協働による取り組み

愛媛大学防災情報研究センター・理工学研究科環境建設工学コース、国土交通省四国地方整備局、愛媛県、愛媛県内の20市町、民間建設関係団体等が連携し、

産官学協働のもとで今後の地域の社会基盤の急速な老朽化に対して調査、研究、情報交換を行い、地域のインフラ再生を担う中核的人材を育成

「愛媛社会基盤メンテナンス推進協議会」

愛媛大学 理工学研究科環境建設工学コース／防災情報研究センター／社会基盤iセンシングセンター

国土交通省 四国地方整備局企画部／松山河川国道事務所

愛媛県庁 土木部管理局土木管理課

【市町自治体】 松山市役所 総務部技術管理課・今治市役所 都市建設部道路課・宇和島市役所建設部建設課・八幡浜市役所 産業建設部建設課・新居浜市役所 建設部道路課・西条市役所 建設部建設道路課・大洲市役所 建設部建設課・伊予市役所 産業建設部土木管理課・四国中央市役所 建設部建設課・西予市役所 産業建設部建設課・東温市役所 産業建設部建設課・上島町役場 建設課・久万高原町役場 建設課・松前町役場 産業建設部まちづくり課・砥部町役場 建設課・内子町役場 建設デザイン課・伊方町役場 建設課・松野町役場 建設環境課・鬼北町役場 建設課・愛南町役場 建設課

【建設業界団体等】 西日本高速道路(株)四国支社・(一社)愛媛県建設業協会・愛媛県土木施工管理技士会・(一社)建設コンサルタント協会四国支部愛媛県部会・(一社)愛媛県測量設計業協会・(一社)全国地質調査業協会連合会 四国地質調査業協会愛媛支部・(一社)全国特定法面保護協会 四国地方支部 愛媛県事務所・NPO法人 愛媛県建設技術支援センター・愛媛県技術士会

愛媛大学ME養成講座のカリキュラム

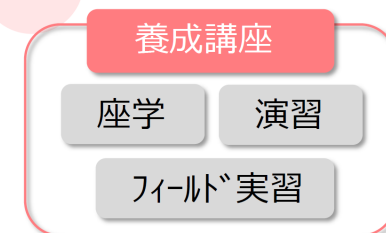
【科目】

- ・インフラマネジメント
- ・主要な社会基盤(道路・橋梁・トンネル・港湾海岸構造物・河川構造物・斜面等の地盤構造物・下水道)のメンテナンス
- ・地域地盤と防災など

【カリキュラム構成】

- ・各科目は、①座学形式の講義から ②グループによる演習、③フィールドワーク(現地実習)につながるように設計
- ・演習やフィールドワークを多く取り入れ、点検、診断、補修のグループワークを通して深い理解を得られるように工夫

仕組み概要



※大学により、1週間～4週間の短期集中講座

認定試験

13日間(12日間) + α のカリキュラム

【受講生】

行政、民間より **30名** (定員)

受講資格： **大学卒** (相当) & **業務経験3年** 以上

【講師】

総勢 **36名** (45科目)

官・民・学から経験や知識の豊富な技術者を招聘
(ME履修者も協力)

座学	54.0 時間	36 コマ
演習	7.5 時間	5 コマ
実習	22.5 時間	15 コマ
グループ研究	6.0 時間	4 コマ
レポート作成	18.0 時間	12 コマ
eラーニング	13.5 時間	9 コマ
121.5 時間		(=1.5時間/日)

科目枠	開催日	1時限目 (8:30～10:00)	2時限目 (10:20～11:50)	3時限目 (12:40～14:10)	4時限目 (14:30～16:00)	5時限目 (16:20～17:50)	(18:30～20:00)
前半	1 9/1 (木)	【開講式】 ガイダンス	総論 取り組み	アセットマネジメント		グループ研究	講義等の レポート作成
	2 9/2 (金)	道路 (舗装)	劣化モデル		道路 (附帯設備)	リスク マネジメント	
	3 9/7 (水)	橋梁のメンテナンス					
	4 9/8 (木)						
	5 9/9 (金)			(フィールド実習, 演習)			
	6 9/21 (水)	トンネルのメンテナンス	下水道 (管路)のメンテナンス				
	7 9/22 (木)			(フィールド実習, 演習)			
後半	8 9/28 (水)	港湾・海岸施設の メンテナンス	(フィールド実習, 演習)		グループ研究		
	9 9/29 (木)	河川構造物の メンテナンス		(演習)	(ME報告)		
	10 9/30 (金)	斜面, 擁壁 等のメンテナンス	(フィールド実習, 演習)				
	11 10/6 (木)	地域の 地盤と災害	ライフサイクル コスト	維持管理の新調査技術 (新アプローチ, 非破壊試験, AI)			
	12 10/7 (金)		メンテナンス 技術者倫理	社会基盤と維持管理 ワークショップ	【閉講式】 今後の技術 向上に向けて		

平成29年～
令和4年度

12日間の講座
(構造物シリーズ構成)

講座期間	科目シリーズ
前半	
1, 2日	インフラマネジメント(1)
3～5日	橋梁のメンテナンス
6～7日	トンネルのメンテナンス 下水道のメンテナンス
後半	
8～10日	港湾海岸施設, 河川構造 物, 斜面・擁壁のメンテナ ンス
11, 12日	地質と地盤, 新技術 インフラマネジメント(2) メンテナンス技術者倫理 ワークショップ
座学	
演習	
実習	
グループ研究	
レポート作成	

令和5年度 社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座 時間割構成

科目枠	開催日	1時限目 (8:30～10:00)	2時限目 (10:20～11:50)	3時限目 (12:40～14:10)	4時限目 (14:30～16:00)	5時限目 (16:20～17:50)	(18:30～20:00)	
前半	1 8/30 (水)	【開講式】 ガイダンス	総論 (社会基盤とインフラ メンテナンス)	アセットマネジメント		グループ研究 (ME報告)	講義等の レポート作成	
	2 8/31 (木)	劣化モデル		ライフサイクル コスト	維持管理における AI技術			
	3 9/1 (金)	道路 (舗装)	道路 (附帯設備)	＜実習＞ コンクリート 耐久性試験	＜実習＞ 非破壊検査技術			
	4 9/4 (月)	＜座学: インフラ施設の維持管理等＞						【注】 対面での受講 が原則ですが、 第4日～8日 については遠 隔受講(Web オンライン)を 併用する場合 があります。
	5 9/5 (火)	橋梁のメンテナンス						
	6 9/6 (水)		トンネルの メンテナンス					
	7 9/7 (木)	港湾・海岸施設の メンテナンス		河川構造物の メンテナンス				
	8 9/8 (金)	斜面、擁壁等の メンテナンス		地質と地盤、災害				
後半	9 9/25 (月)	＜実習＞海岸施設の点検と 診断、補修		＜座学＞下水道の 維持管理	＜実習＞下水道の点検と診断、補修			
	10 9/26 (火)	＜座学＞トンネル の点検と診断	＜実習、演習＞トンネルの点検と診断、補修					
	11 9/27 (水)	＜座学＞橋梁の 維持管理手法	＜実習、演習＞橋梁の点検と診断、補修					
	12 9/28 (木)	＜演習＞斜面の設 計と維持管理	＜演習＞擁壁の設 計と維持管理	＜実習＞斜面、擁壁等の点検と診断、補修				
	13 9/29 (金)	リスク マネジメント	メンテナンス 技術者倫理	社会基盤と維持管理 ワークショップ		【閉講式】 今後の技術 向上に向けて		

令和5年度～

インフラメンテナンス国民会議
市区町村長会議 四国地方ブロック会議
毎年各県2名の職員派遣の要望



13日間の講座
(学び方シリーズ構成)

講座期間	科目シリーズ
前半 1～3日	インフラマネジメント (総論、AM、LCC、AI)、 道路のメンテナンス、室内実習
4～8日	座学： 各種インフラの維持管理など
後半 9～12日	フィールド実習： 橋梁、トンネル、海岸施設、下水 道、斜面・擁壁のメンテナンス
13日	リスクM、 メンテナンス技術者倫理 ワークショップ
	座学
	演習
	実習
	グループ研究
	レポート作成

科目枠	開催日	1時限目 (8:30～10:00)	2時限目 (10:20～11:50)	3時限目 (12:40～14:10)	4時限目 (14:30～16:00)	5時限目 (16:20～17:50)	(18:30～20:00)		
前半	1	8/30 (水)	【開講式】 ガイダンス アイスブレイク	社会基盤と 維持管理(総論)	社会基盤のアセットマネジメント		グループ事例研究	講義, 事例研究の レポート作成	
	2	8/31 (木)	劣化モデルと 評価手法	劣化モデルと 評価手法〈演習〉	ライフサイクル コスト	維持管理における AI技術	グループ事例研究	講義, 事例研究の レポート作成	
	3	9/1 (金)	舗装の設計と 維持管理	道路附帯設備の 点検と補修工法	〈実習〉 コンクリートの 耐久性試験	〈実習〉 詳細点検のための 非破壊検査技術	グループ事例研究	講義, 事例研究の レポート作成	
	4	9/4 (月)	橋梁上部工の 設計と維持管理 (鋼橋)	橋梁上部工の 設計と維持管理 (コンクリート橋)	橋梁上部工の 設計と維持管理 (床版)	橋梁構造物の 下部工の 設計と維持管理	【注】 対面での受講 が原則ですが, 第4日～8日 については遠 隔受講(Web オンライン)を 併用する場合 があります。	講義, 事例研究の レポート作成	
	5	9/5 (火)	鋼橋の損傷と対策	コンクリート橋の 損傷と補修工法	橋梁の補修設計	橋梁構造物の 基礎工の 設計と維持管理		講義, 事例研究の レポート作成	
	6	9/6 (水)	橋梁の耐震補強	維持管理の 新しいアプローチ (橋梁の簡易点検)	トンネルの設計	トンネルの 変形と補修工法		講義, 事例研究の レポート作成	
	7	9/7 (木)	港湾・海岸施設の 維持管理	港湾・海岸施設の 損傷と補修	河川構造物の 維持管理	河川堤防の 損傷と補修		講義, 事例研究の レポート作成	
	8	9/8 (金)	斜面の設計と 維持管理	擁壁の設計と 維持管理	四国・愛媛県の 地形と地質	地域の地盤特性と 健全度評価		講義, 事例研究の レポート作成	
後半	9	9/25 (月)	〈実習〉 海岸施設の点検と診断, 補修		下水道の 維持管理	〈実習〉 下水道の点検と診断, 補修		講義, 事例研究の レポート作成	
	10	9/26 (火)	トンネルの 点検と診断	〈実習, 演習〉 トンネルの点検と診断, 補修					講義, 事例研究の レポート作成
	11	9/27 (水)	橋梁の 維持管理手法	〈実習, 演習〉 橋梁の点検と診断, 補修					講義, 事例研究の レポート作成
	12	9/28 (木)	斜面の設計と 維持管理〈演習〉	擁壁の設計と 維持管理〈演習〉	〈実習〉 自然斜面, 落石, 切土, 擁壁の点検と診断, 補修			講義, 事例研究の レポート作成	
	13	9/29 (金)	リスク マネジメント	メンテナンス 技術者倫理	社会基盤と維持管理 ワークショップ		【閉講式】 今後の技術 向上に向けて	講義, 事例研究の レポート作成	

令和5年度

13日間
+ αの
カリキュラムeラーニング
(事前学習)1.5時間／コマ
× 4or5コマ／日
× 13日間

レポート



120時間

オンライン 12

座学

演習

室内
実習

フィールド実習

「社会基盤と維持管理ワークショップ」

インフラメンテWS

KJ法による課題分析と解決の方向性



ベビーブーム世代

X

Y

Z 世代

α

デジタルイミгранト

デジタルネイティブ

(膨大な老朽化インフラの維持管理を背負う世代)

ME講座
受講生

1960

1970

1980

1990

2000

2010

2020

平成30年度

令和元年度

令和2年度

令和3年度

令和4年度

令和5年度

行政

民間

10

12

豪雨災害

11

14

7

13

10

8

コロナ

8

19

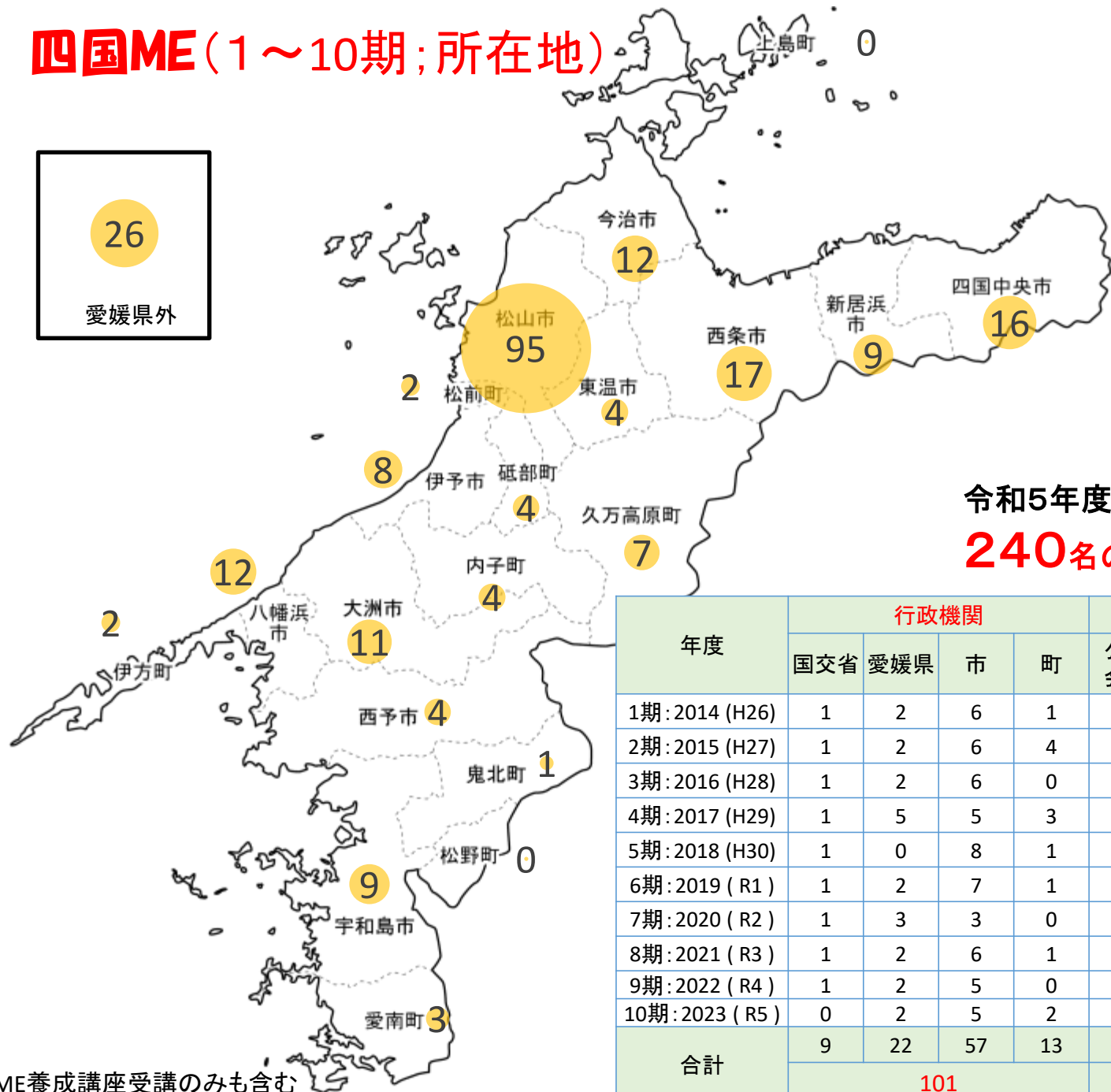
9

21

(人) 14

四国ME(1～10期;所在地)

26
愛媛県外

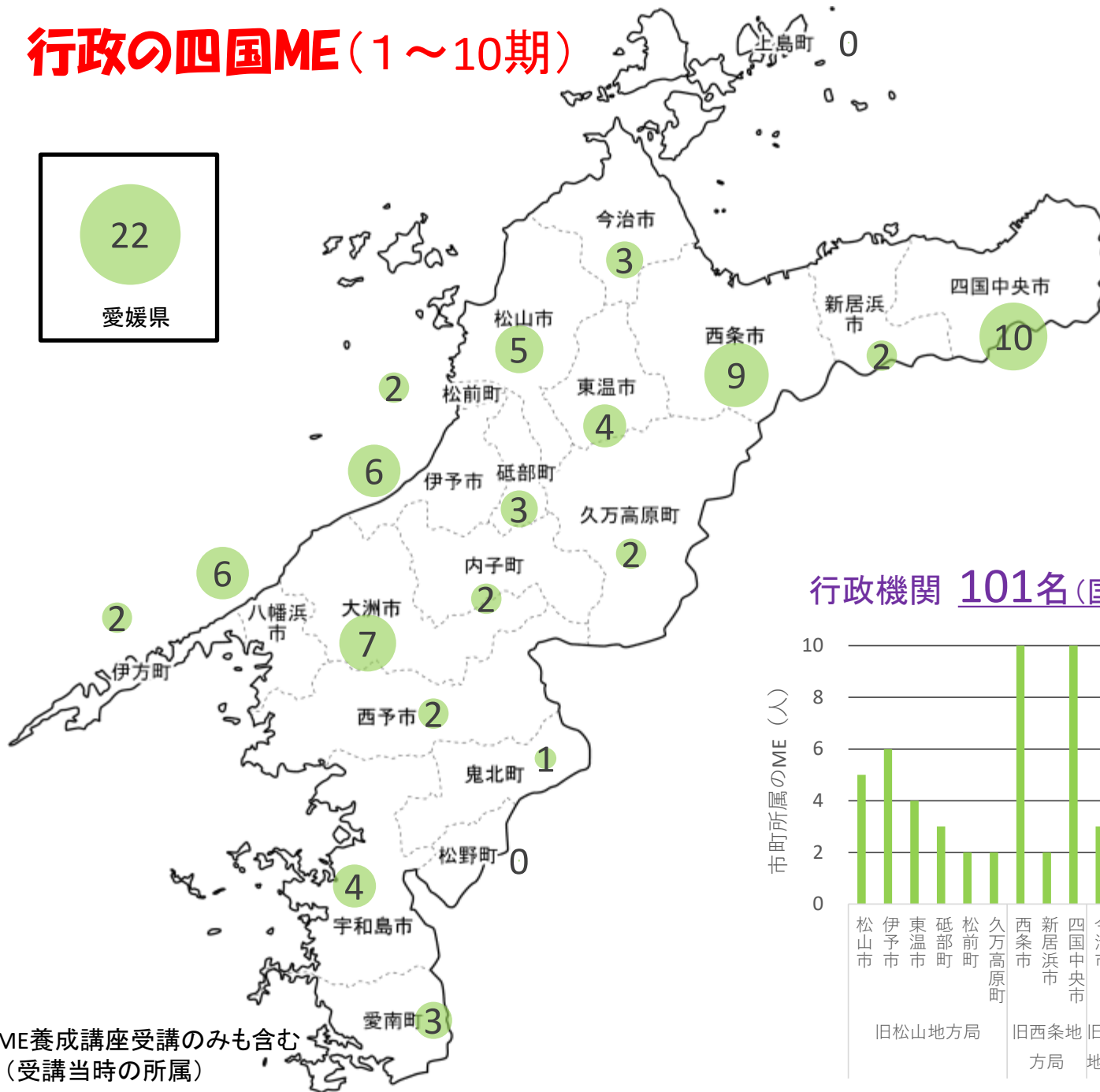
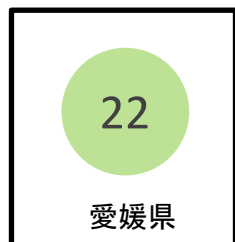


令和5年度までの10年間で、
240名の**四国ME**を輩出

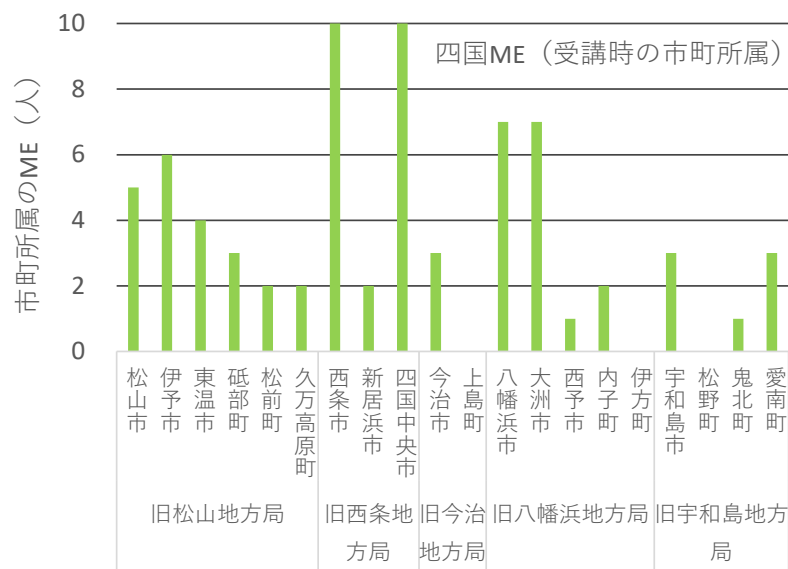
年度	行政機関				民間会社				
	国交省	愛媛県	市	町	公益会社	コンサル	建設会社	測量会社	その他
1期:2014 (H26)	1	2	6	1	2	8	2	1	1
2期:2015 (H27)	1	2	6	4	1	5	1	0	1
3期:2016 (H28)	1	2	6	0	1	9	0	4	0
4期:2017 (H29)	1	5	5	3	1	9	1	4	2
5期:2018 (H30)	1	0	8	1	0	7	3	1	1
6期:2019 (R1)	1	2	7	1	0	9	3	2	0
7期:2020 (R2)	1	3	3	0	0	7	1	3	2
8期:2021 (R3)	1	2	6	1	0	7	1	0	0
9期:2022 (R4)	1	2	5	0	0	13	1	3	1
10期:2023 (R5)	0	2	5	2	0	10	8	2	0
合計	9	22	57	13	5	84	21	21	8
101					139				15

※ME養成講座受講のみも含む

行政の四国ME(1～10期)

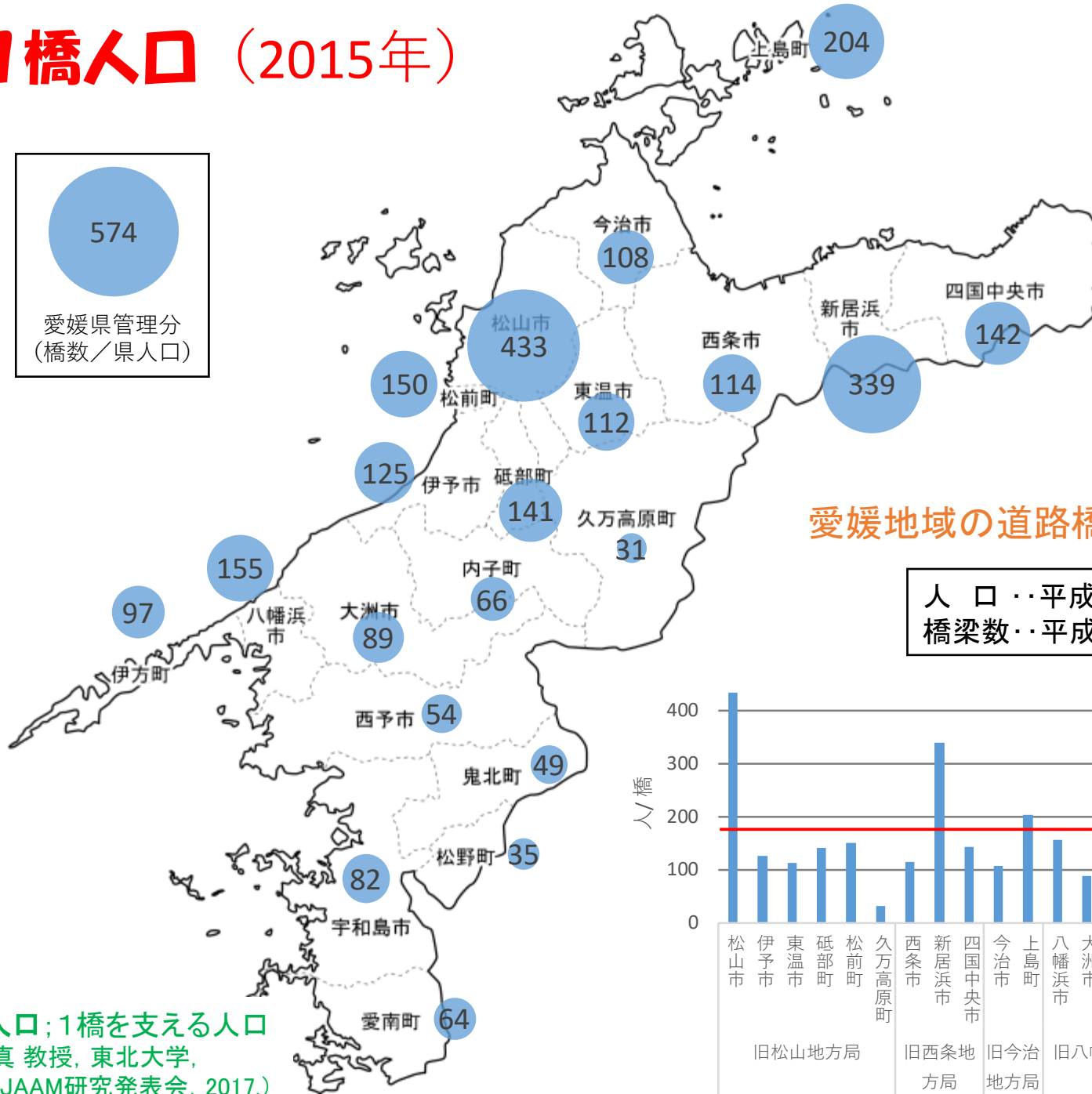
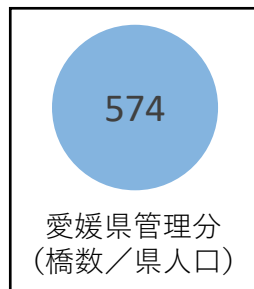


行政機関 101名(国交省9名, 愛媛県22名)



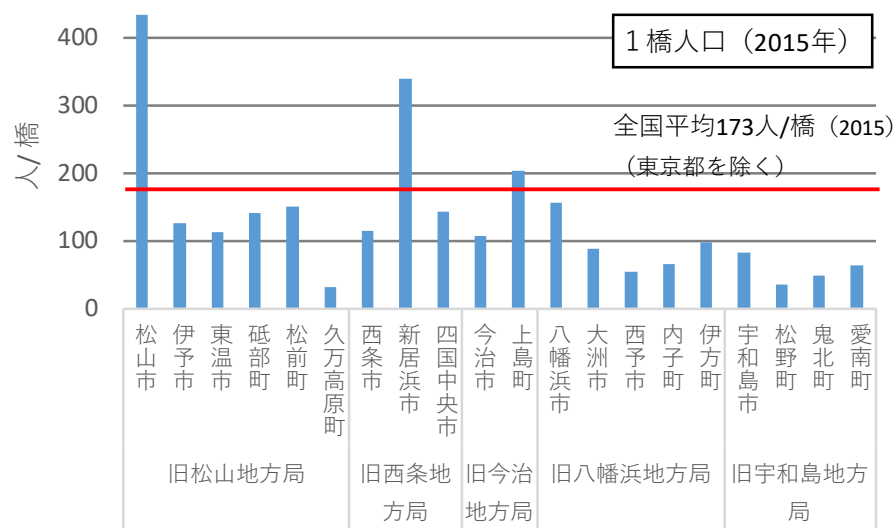
※ME養成講座受講のみも含む
(受講当時の所属)

1橋人口 (2015年)



愛媛地域の道路橋梁 = 1万3千橋

人口・・・平成27年度国勢調査
橋梁数・・・平成28年度時点

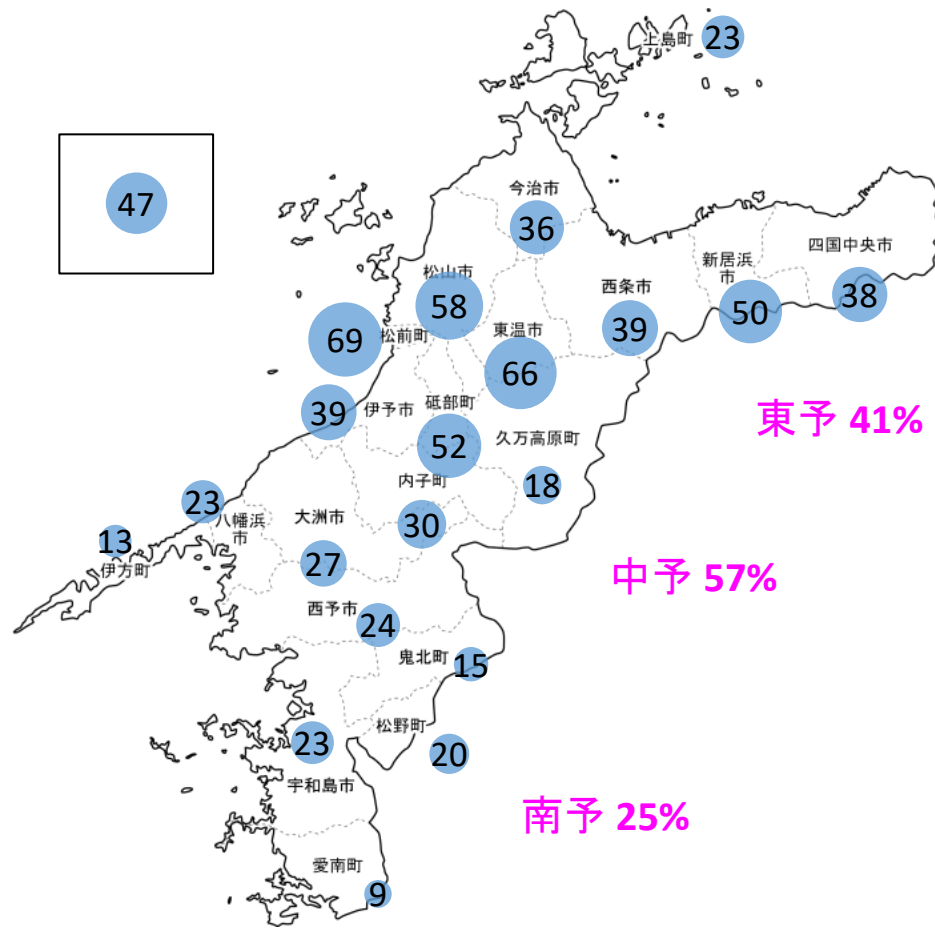
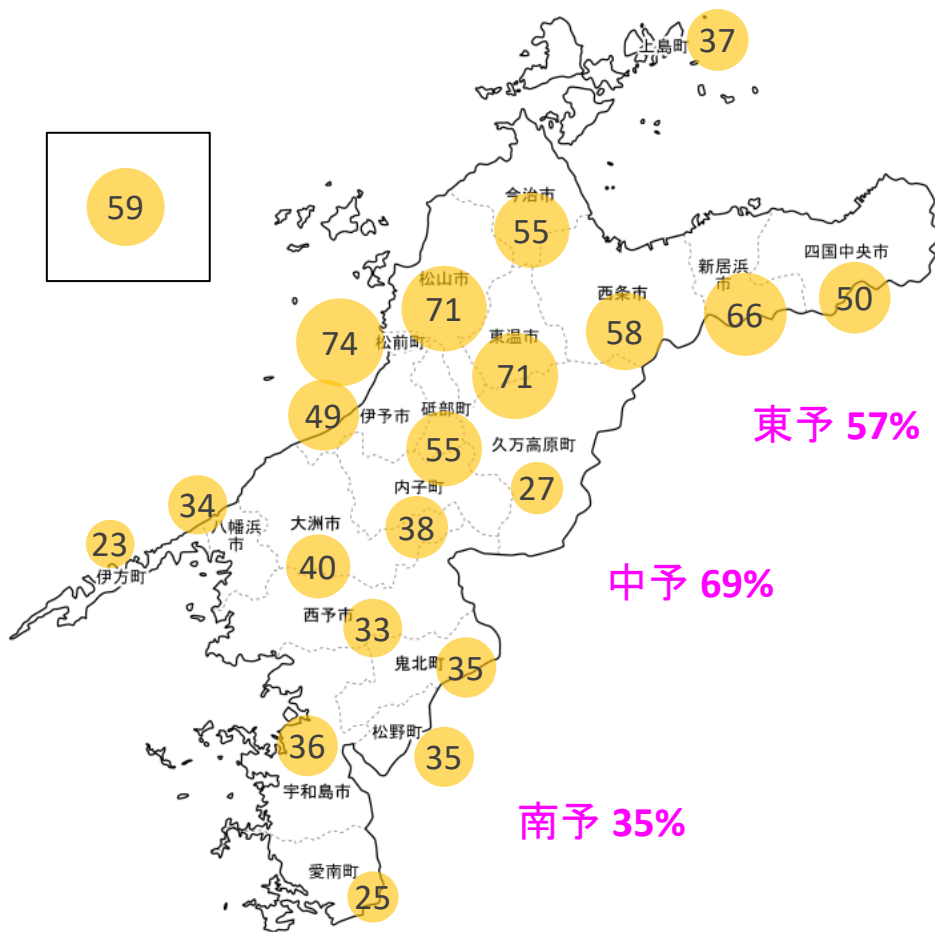


※1橋人口; 1橋を支える人口
(久田 真 教授, 東北大学,
第1回JAAM研究発表会, 2017.)

刻々と進む人口減少(例えば, 愛媛県)

人口比率%(2060年/2020年)

人口比率%(2060年/2020年)
うち、15~29歳人口



データ：2020年国勢調査等に基づく将来推計人口,
愛媛県企画振興部政策企画局総合政策課, 2022

愛媛県内における建設技術者の年齢分布

「えひめの災害に立ち向かう建設技術に関わるアンケート調査」（2021，愛媛大学防災情報研究センター）

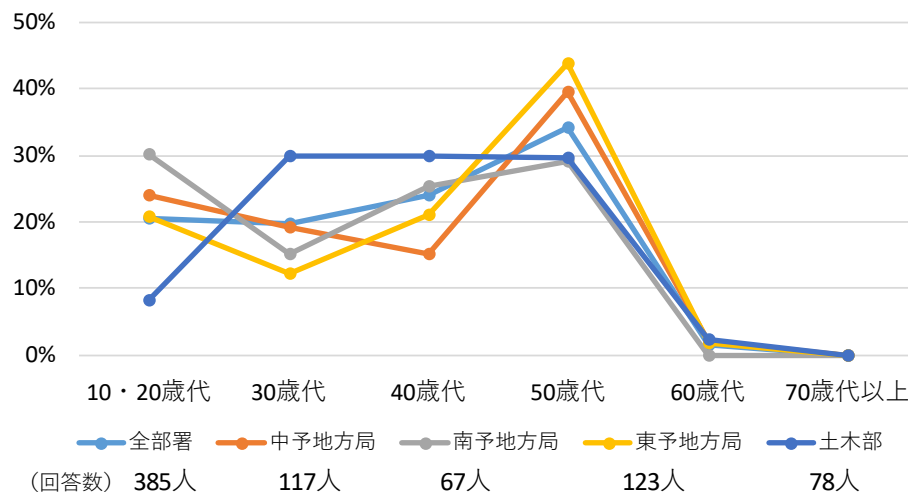
県内の技術者数	愛媛県	建設会社	コンサル系会社
有効回答率	100%	40%	58%
全域 (有効回答総数)	385 (42)	2380 (201)	852 (42)
中予地域 ※県の下段は土木部	67 (7) 117 (10)	436 (31)	412 (31)
南予地域	123 (13)	937 (65)	186 (9)
東予地域	78 (12)	885 (95)	216 (7)

※ () 内は部署・会社数。全域には不明を含む。

※ 各社の所在地は本社を代表させている。

【愛媛県庁】

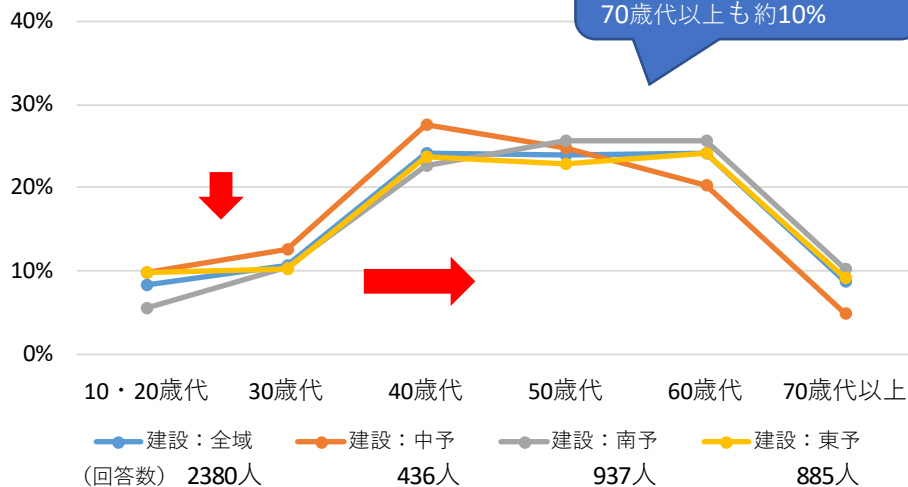
部署の技術者数は何人ですか（総人数）？



【建設会社】

貴社の技術者数は何人ですか

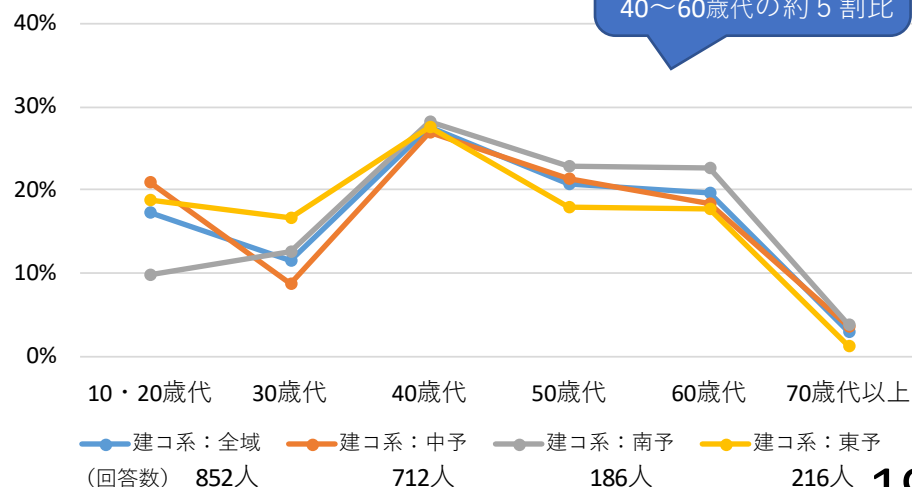
10・20, 30歳代が各約10%
40,50,60歳代が各約25%
70歳代以上も約10%



【コンサル系会社】

貴社の技術者数は何人ですか

建設会社の傾向よりは緩むが、30歳代以下は40～60歳代の約5割比



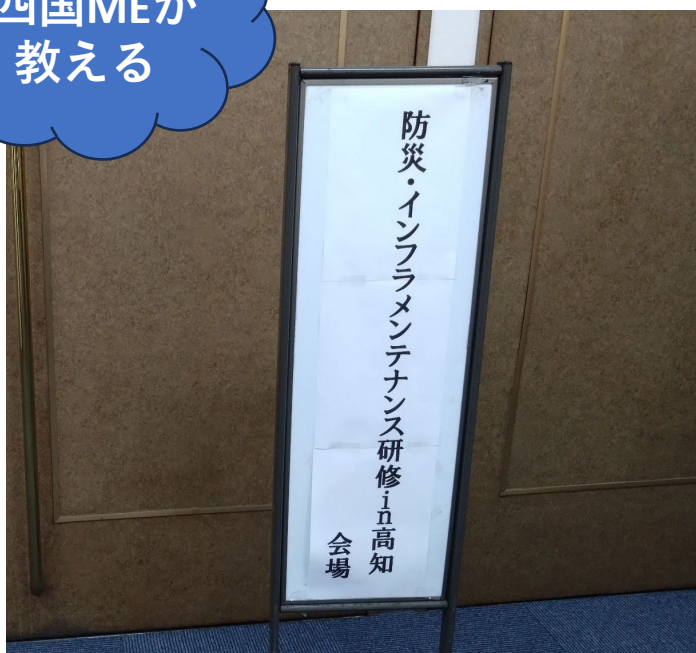
防災情報研究センターの 関連する取り組み

インフラメンテナンス国民会議 市区町村長会議及び四国地方フォーラム

補助組織：インフラメンテナンス推進検討会 行政職員の研修会企画

令和6年10月3日-4日	インフラメンテナンススキルアップ研修in高知
令和6年10月10日-11日	インフラメンテナンススキルアップ研修in愛媛
令和6年11月12日-13日	インフラメンテナンススキルアップ研修in徳島
令和6年11月26日-27日	インフラメンテナンススキルアップ研修in香川

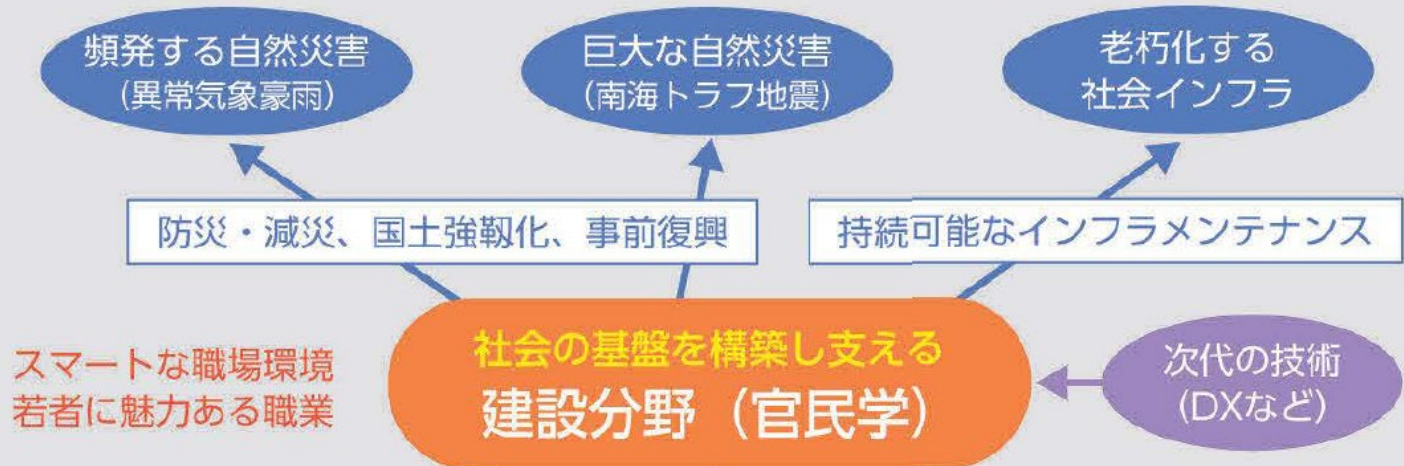
四国MEが
教える



CTB-ehime

えひめ建設技術防災連携研究会

■ 地域の安心と安全（災害リスク等）に立ち向かう建設分野



■ 社会問題の中の建設分野

■ 技術革新の中の建設分野

「えひめ建設技術防災連携研究会」の目的と3つの活動

次代の建設分野の創生、「安心」「安全」「快適」な暮らしへの寄与



目的

- 次代を担う建設技術者の育成
- 地域の建設技術力の向上と知識の共有
- 防災のより実効的な展開のための官民学の連携と共創

活動

- 建設技術と防災に関する研究活動
- 建設技術と防災に関する教育活動
- 建設技術と防災に関する広報活動
- その他、必要な活動

愛媛県内
建設分野の
連携

常任機関（主催者）

愛媛大学防災情報研究センター
愛媛県土木部
愛媛県建設業協会
愛媛県測量設計業協会

参加機関

国土交通省四国地方整備局（松山河川国道事務所、大洲河川国道事務所）、建設コンサルタント協会四国支部愛媛県部会、全国地質調査業協会連合会四国地質調査業協会愛媛支部、愛媛県土木施工管理技士会、愛媛県建設技術支援センター、愛媛県技術士会、市町建設部局（調整予定）

南予地域防災・インフラメンテナンスシンポジウム 「南海トラフ巨大地震に備える」

～社会インフラ整備、事前復興、そして群マネの推進による南予地域の強靱化～

主 催： えひめ建設技術防災連携研究会CTB-ehime、愛媛大学防災情報研究センター

共 催： （一社）四国クリエイト協会、インフラメンテナンス国民会議四国地方フォーラム

後 援： 国土交通省四国地方整備局、愛媛県、宇和島市

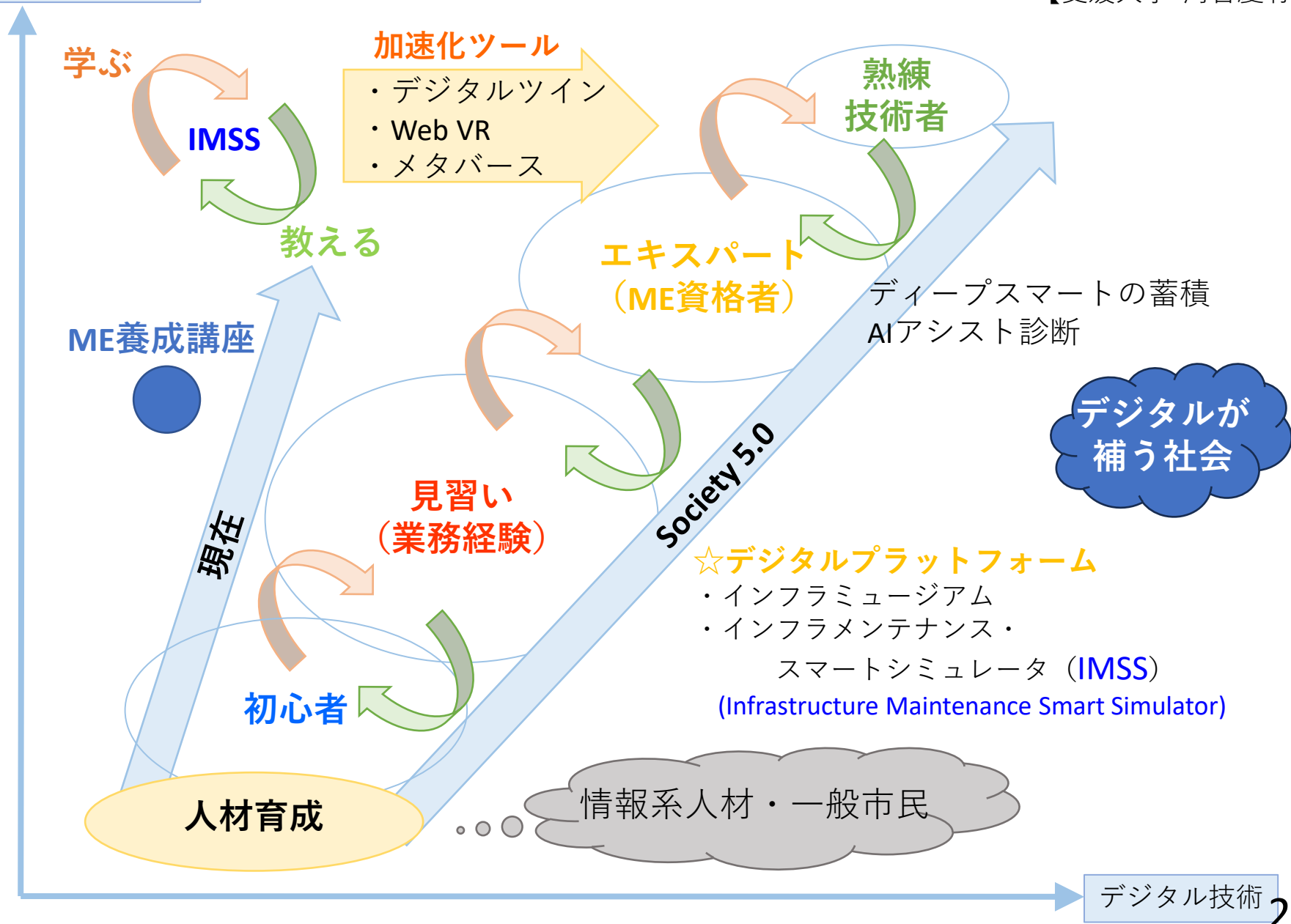
日 時： 令和6年9月7日（土） 9:25～11:45（9:00開場）

会 場： パフィオうわじま（宇和島市学習交流センター内）



基調講演「防災・減災国土強靱化の推進」
総務大臣政務官 衆議院議員 長谷川淳二 氏

パネルディスカッション；宇和海沿岸の首長と語る
「南予地域を守る社会インフラ整備・事前復興・群マネの推進」





SiP

戦略的イノベーション創造プログラム

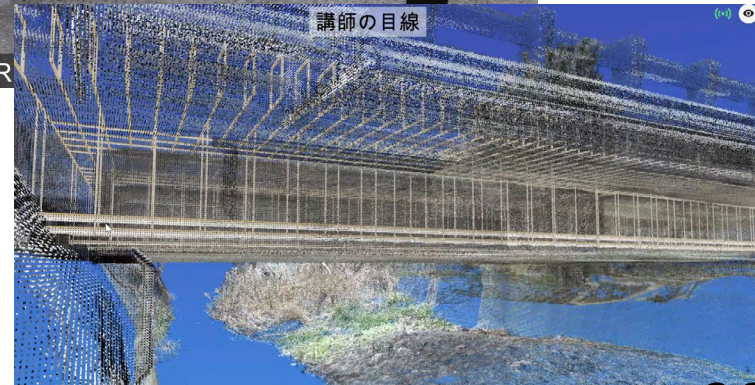
Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program

課題9「スマートインフラマネジメントシステムの構築」

サブ課題c「地方自治体等のヒューマンリソースの戦略的活用」

研究開発テーマ c-1(1)「教育環境のプラットフォーム等の構築に関する技術開発」

「教育用デジタルプラットフォーム（IMSS：Infrastructure Maintenance Smart Simulator）の構築と技術者教育・アウトリーチ活動への展開」（愛媛大学担当）



Web VR と
メタバースの
教育環境



**ご清聴，ありがとうございます
ございました。**